

突然冬がやってきた12月。そり遊び、雪だるまなどで遊べる二学期は久しぶりでした。12月も暖かくこのまま最終日を例年のように迎えるのかと思っていましたが、冬の12月の来訪。子どもたちは大喜びでした。大地には、あちこちに雪が残り、幸せな二学期の終わりとなりました。このまま行くと、冬休みもスキーや雪遊びが楽しめることでしょう。

二学期は、認定こども園として新たなスタートをきり、大地の森整備を終え、まさに新生大地という気分でした。1年がかりで書類と行政と相まみえながら、願いを持って叶えた認定こども園。登山と同じような達成感とクリエイティブな満足感。精神的頭脳的な疲労感が心地よく、還暦の通り次の世代、時代に突入した気分でした。

そして、そのスタイルを現実的に表現しようと、身体的肉体的に目に見える形に表現しようと、大地の周囲の森の環境を一新しようと決意しました。小五の時に植えたカラ松林の全部伐採。開園時に植えたスロープ下のハルニレの大木。人気だったアスレチックのブランコなどに別れを告げて、新しい時代環境を作り上げる事。更に、今後は若い次男の雄河達に新しい大地の教育内容を作り上げていく助言をしていく事。大地の物心両面の環境を更に作りあげていくこと。まだまだ楽しみがいっぱいです。

子どもたちのホームグラウンドは、やはり大地の丘とその園舎内の空間。ののほな文庫。やはり何よりも、これらのホームグラウンドを最高のものにして、ここにいるだけで豊かで気持ちよくなる、それが穏やかさと平和の気持ちになれるだけに、この日々の暮らしの環境に大きなエネルギーを注いでいこうと願います。

まさに 凡事徹底しながら、日々の暮らしを楽しむ、それを目指して頑張っていきたいと思えます。よい年をお迎え下さい



【冠婚葬祭】

青ちゃんの両親は、この地域でもはや羨ましがられるくらい元気で健在です。父親は、8人姉弟の上から三番目の長男。母親は、7人姉兄弟の上から四番目の次女。父親の二番目の姉は、この12月11日に亡くなったが、つい一ヶ月前までは、老人ホームで一人で暮らしていた。初めて8人姉弟の一人がいなくなってしまうが、残る7人は皆元気。母親の一番上の兄（一番青ちゃんがお世話になった長野大橋保育園の理事長、園長の夫）は10年前位に亡くなったが、残る6人は皆元気。

一般的に、子どもって父方よりも母方の実家が好きで、結果的に母方の祖父母そしてそちらの従兄弟達と比較的仲良くなる傾向にあるようです。（もちろん違う場合もありますが）青ちゃんは数多い従兄弟の中では、一番多くのおじさんおばさん達の厄介になってきたように思われます。旅に出たら泊めさせてもらったり、一人暮らしで寂しくなったら居候させてもらったり、見ず知らずの友だちを連れて行ったり様々な面でお世話になってきました。

どちらかという、父方の兄弟達は、あまり仲が良くないイメージで集まっても暗いイメージで、母方のそれは陽気で仲がいいイメージだったので、お盆などで母の実家へ行き、おじさんおばさん達と会うのが楽しみでした。父親は長男なのでお盆にはおじさんおばさん達が集まってきましたが、女兄弟が5人なので噂話や陰口をしている感じがありました。先日93歳で亡くなった父方の叔母には、離婚したり（戦前）出戻りだったりいろいろあったらしく、個性が強烈だったのか、兄弟仲にいつも何か原因をもたらしていたらしく、長男である父親と妻である母親は、相当な嫌な思いを持っているらしく、亡くなくても父親はまだ恨んでいる位である。それは、青ちゃんが小さい頃からいろいろ感じていたくらいであった。

この叔母さんには子どもがなく、晩年一人暮らしで豊野町のホームで暮らしていたので姉妹2人ほどは時折訪ねてお茶を飲んだりしていたらしいが、皆高齢になってきて様々な面倒や事務手続きなどができなくなってきており、長男である父親がその立場上見なければならぬような感じであったが、父親も高齢だしそれ以上に感情的なもつれがあるのでそれも難しい……あなたと健康の冊子に、ご先祖様からのしごらみや悪い縁をどこかで絶ちきる事、どこかの代でクリアしておくことが、その後には続かない大切なことだという記事を読んでいたのも、青山家の幸せな末代とこの叔母にも生まれて初めて東京タワーを案内してもらい、初めて特急あさまに乗せてもらったりして可愛がってもらったり、晩年の寂しさに寄り添ったりしてあげたいと思い、お世話をすることに決めた。6月に妻の京都の母親の面倒を見てノウハウを学んだので、この叔母さんにも車椅子で夫のお墓や姉妹の家に連れて行ったり、入退院の手続きや全てをやってきただけに、危篤の知らせを受けた時はさすがに動揺した。亡くなった時は、兄弟姉妹高齢で覚悟していたので、2人ほどの姉妹が涙を流していたが、もちろん父親はじめその他の兄弟達は涙を流さずにひょうひょうとしていた。

叔母さんの亡くなる3週間程前に主治医から、「あと持っても2週間くらいですね」と言われていた。一週間後に秋休みで京都リンゴ直売があるので、どうかそれまでは持たせて欲しいなどと頼み込んだ。12月4日頃から青ちゃん姉ちゃんが両親を連れて温泉に行く予定であったがこれはキャンセルして備えた。そして、母親が一番楽しみにしている兄弟姉妹会が12日から14日の2泊3日であり、これだけは絶対出たいと1年前から楽しみにしていた一大行事。皮肉にもその前日に叔母さんが亡くなった。母親は「最後の最後までこの巡り合わせに苦しめられる」と嘆いた。

そこで青ちゃんは喪主として考えた。どちらもハッピーになり巡り合わせを断ち切ることを。身よりもないひとりぐらしだったので、家族葬（兄弟のみ10名）と事前に決めていたので、お通夜を13日の夕方、葬儀を翌日のお昼として、両親が兄弟会の温泉から、お通夜や葬儀に通えるように（姉の送り迎え）喪主の一存で予定を組んだ。そして、兄弟会の夜の宴席には、サプライズでせんげもんさんをお座敷に招待して、獅子舞や三味線や踊りなどで盛り上げていただき、小さい頃からの感謝を表した。その翌晩も、お通夜を終えてから、たくさん写真をビデオにして再びサプライズで宴席でプロジェクターを流した。

お葬式の後のお伽は辞めて、父方の兄弟姉妹10名を火葬場からお骨と一緒に温泉へ一泊で連れて行った。こちらも高齢のグループなので、青ちゃんが付き添いいろいろ世話を焼いて、ツアコンをしてきた。ほとんど近所に住む人達だったので、大地のハイエースは送迎車として大活躍。冠婚葬祭を同時に3日間に渡って企画経験させてもらった。年齢を重ねることの現実から多くのことを学んだ。

そして、兄弟姉妹仲がいいことの自分なりのヒントを得た。青山家の4人の子どもたちは本当に仲がいいと自負している。それはどうしてだろうと考えた。もちろん妻の穏やかな平和主義に大きな要因があるのだが。まず、同じ被害者意識が共有されていることによる一体感（テレビもない人並みではない環境）。スマホやゲームなどなく、兄弟で遊ぶ事しかなかった環境。食事の片付けや家の仕事などは、必ず皆でやらなければならなかったこと。休日の遊びには、全員で一人一人の好みなどは後回しで遊びにでかけたこと。ホテルなどに泊まらず、いつもテントやキャンプで一体感を持ってきたこと。仲の良い環境、事例をたくさん見てきたこと（まずは私たち夫婦であるが!?!）。いつも必ず通る2階への階段に家族で仲がよい写真を貼り付けていること。長男長女が仲良くて、長男に思いやりがあったこと、更に長男の妻も本当に思いやりがある事……などか。

仲が良いから一緒にやるのではなく、一緒に何かをするから仲が良くなる というクリエイティブで主体的な暮らしをしていきたいと願う。